

# 地震

揺れやすさ  
建物倒壊危険度  
液状化可能性

## ハザードマップ



**ふじみ野市役所**  
〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1  
電話番号 049-261-2611  
2025年7月作成

## 地震ハザードマップとは

地震ハザードマップとは、地震災害に関する情報や避難方法などを市民のみなさんに提供することにより、日頃からの防災意識を高め、いざという時の被害を最小限にすることを目的とした地図です。

### この地震ハザードマップについて

この地震ハザードマップは、埼玉県が平成24・25年度に行った「埼玉県地震被害想定調査」における想定地震の被害想定をもとに、「揺れやすさ」「建物倒壊危険度」「液状化可能性」を作成し、これらを「地震ハザードマップ」としています。

揺れやすさ	建物倒壊危険度	液状化可能性
「揺れやすさ」は、ふじみ野市に大きな影響を及ぼすと想定した地震が発生した場合に、地震の震源からの距離と地域の表層地質の状況から、地域ごとの震度として揺れやすさを示しています。計算のための単位は50mメッシュで、「揺れやすさ」を震度でランク分けしています。	「建物倒壊危険度」は、ふじみ野市に大きな影響を及ぼすと想定した地震が発生した場合に、地形の状況と地表からの地震動から評価して、建物・橋梁・構架、ライフライン施設などに影響を及ぼす液状化がわかる可能性の大小を示しています。計算のための単位は50mメッシュで、「建物倒壊危険度」をランク分けして表しています。	「液状化可能性」は、ふじみ野市に大きな影響を及ぼすと想定した地震が発生した場合に、地形の状況と地表からの地震動から評価して、建物・橋梁・構架、ライフライン施設などに影響を及ぼす液状化がわかる可能性の大小を示しています。計算のための単位は50mメッシュで、「液状化可能性」をランク分けして表しています。

### 対象とした地震について

埼玉県が平成24年・25年度に行った「埼玉県地震被害想定調査」で想定された5つの地震のうち、比較的切迫性が高い「東海北部地震」と、ふじみ野市の被害が大きくなる「関東平野北西縁断層帯地震（破壊開始点中央）」を対象としています。

**埼玉県地震被害想定調査（地震ハザードマップで対象とした地震）**

東海北部地震	元禄型関東地震	立川断層帯地震
【海溝型地震 マグニチュード7.3】 フィリピン海プレート上面の震源深さに関する最新の知見を反映 ※今後30年以内に南関東地域でM7.3の地震が発生する確率：70% ふじみ野市の想定震度：大半が震度5強、一部6強 地震の突上げ強振動は南東方向から来る 全壊棟数（揺れ+液状化）：2棟、半壊棟数（揺れ+液状化）：95棟 焼失棟数（冬の午後6時、風速8m/s）：79棟	【相模湾～房総沖】 【海溝型地震 マグニチュード8.2】 フィリピン海プレート上面の震源深さに関する最新の知見を反映 ※今後30年以内に南関東地域でM7.3級の地震が発生する確率：70% ふじみ野市の最大震度：震度5強	【活断層型地震 マグニチュード7.4】 最新の知見に基づく震源条件により検証 ※今後30年以内の地震発生確率：2%以下 ふじみ野市の最大震度：震度5弱

※このハザードマップの対象地震です。

上記以外の埼玉県地震被害想定調査による地震

茨城県南部地震	元禄型関東地震	立川断層帯地震
【海溝型地震 マグニチュード7.3】 最新の知見を反映 ※今後30年以内の地震発生確率：70% ふじみ野市の最大震度：震度5強	【相模湾～房総沖】 【海溝型地震 マグニチュード8.2】 最新の知見を反映 ※今後30年以内に南関東地域でM7.3級の地震が発生する確率：70% ふじみ野市の最大震度：震度5強	【活断層型地震 マグニチュード7.4】 最新の知見に基づく震源条件により検証 ※今後30年以内の地震発生確率：2%以下 ふじみ野市の最大震度：震度5弱

## 地震発生時のメカニズム

地球表面のプレートと呼ばれる板状の堅い地殻が運動することにより、プレートどうしの境界や周辺で生じる「ひずみ」が原因で、地震が発生します。日本では主に海溝型と活断層型の2種類の地震が起きています。

### 海溝型地震の発生

海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、プレートどうしの境界にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとするとはね上がり、地震が発生します。

### 活断層型地震の発生

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところでひずみが生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層（活断層）を震源として地震が発生します。

### マグニチュードと震度の関係

マグニチュード（以下Mと表記）は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0（日本観測史上最大）でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

### 地震発生時のメカニズム

プレートどうしが接触しているところ（二つの面の境界）を断層とします。

北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレート、マグマ

断層の種類：正断層、逆断層、横ずれ断層

正断層：縦ずれ断層の一つで、水平方向に引張る力がかり、地下に入った割れ目を境に、片方が滑り落ちるような方向で動いてきたもの。

逆断層：縦ずれ断層の一つで、水平方向に圧縮する力がかり、地下に入った割れ目を境に、片方が乗り上げるような方向で動いてきたもの。

横ずれ断層：地下の岩盤を破壊する力が水平方向にかり、水平方向にずれ動いてきたもの。

### 地震発生時のメカニズム

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えることができます。同じ電球からでも、机がどの位置にあるかで机の上の明るさは異なるように、マグニチュードが同じ震度であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。

## 避難時の注意点

ふじみ野市には、災害時に備えて小・中学校を中心に地域防災拠点（指定避難所）が21か所あります（そのうち1か所は水害時のみ）。家族やご近所の人たちとも避難所を確認して、避難の際は声をかけ合い安全に避難してください。

### 日頃から備えよう

**家族会議を開きましょう**  
日頃から家族会議を開き、家族が離れ離れの時の連絡方法や、落ち合える集合場所や避難所を確認しておきましょう。

**避難所・避難経路の確認**  
自宅や学校・勤務先から避難所への避難経路も確認しておきましょう。平常時には実際に歩いて安全に通行できるかを確認しておきましょう。

**非常用持出品の準備**  
避難する時の荷物は必要最小限とし、食料は賞味の手間や水をあまり使わないシリアルやインスタント食品を選びましょう。予備の乾電池も忘れずに。

**自力避難が難しい人への対応**  
高齢者や体に不自由のある方、子供などは、自分だけで避難することが難しいので、避難行動支援者名簿への登録を促したり、自治組織などで支援体制を整えておきましょう。

**帰宅困難に備えよう**  
大震災が起きると交通手段が断たれて帰宅困難になります。平常時に徒歩やバス等で帰宅ルートの街並を記憶し、職場にスニーカーや地図・携帯食糧等を備えよう。

**避難生活では助け合おう**  
避難生活が数日間やそれ以上続くような場合には、避難所では大勢の方との共同生活、自宅での在宅避難でも日常生活とは異なる生活を送ることになります。避難所の生活ではルールを守って協力し合い、在宅避難の場合でも、近所の方々と助け合うように心がけよう。

**避難の際には**  
ご近所と声をかけ合いましょう  
避難の際は、避難の必要がある場合はご近所の人たちと声をかけ合い、声をかけ合い安全に避難してください。

**電気やガスの元栓を締めよう**  
避難の際は電源のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めましょう。電気やガスが復旧した際に、出火する危険性があります。また、電話の受話器も戻しておきましょう。

**初期消火に協力**  
天井に燃え移る前の火が小さい初期段階であれば、周囲の人に大声で知らせ協力し、初期消火機材や風呂の残り湯なども利用して消火できます。

**要配慮者への支援**  
高齢者や体に不自由のある方、地震で怪我をされた方は、災害時に避難行動や生活などで困難な状況に置かれることが多いので、周囲の方々は積極的に支援・協力してください。

**徒歩で帰宅時の心得**  
外出先で大地震が発生した場合は、「むやみに移動を開始しない」ことが前提ですが、むやみに得ず徒歩で帰宅する際は、以下の心得をもとに、適切な行動をとってください。

**徒歩帰宅の心得7カ条**

- 留まる
  - 連絡手段、事前に家族で話し合い
  - 携帯も、ラジオも必ず話し合い
- 知る
  - 日頃から、帰宅経路をシミュレーション
  - 災害時の味方、帰宅支援ステーション
  - 職場には、小さなリュックとスニーカー
  - 帰宅前には、状況確認
- 帰る
  - 助け合い、助まらして徒歩帰宅

**安否情報を伝えよう**  
家族や親戚等に、公衆電話やFAXなどで、安否や避難先を伝えよう。NTTの災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の災害用伝言サービスも利用できます。

## 地震ハザードマップとは

## わが家の備え（屋外・屋内）

地震対策は、行政だけでできるものではありません。個人の生命や財産を守るためには、みなさん一人ひとりあるいは家族が協力して地震に備えておく必要があります。屋外・屋内について、地震に対する安全性を点検しておきましょう。

### 屋外の備え・点検箇所

アンテナはしっかり固定されているか。  
ベランダにある植木鉢や干し手など、落下のおそれはないか。  
ベランダの手すりに破損や腐食箇所はないか。  
壁や基礎にひび割れなどがないか。腐ったり、シロアリの食われていない箇所はないか。  
ブロック塀にはしっかりした鉄筋が入っているか。破損箇所はないか。  
プロパンガスボンベは鎮でしっかり固定されているか。  
鉢植えはスベリ止めマットに乗せる。

### 屋内の備え・点検箇所

タンスなどの高い家具はL型金具や突っ張り棒で固定する。詳しくは「わが家の備え（家具の固定・配置）」のコーナーを参照。  
窓などの板ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る。  
カーテンは防災処理を施したものにしよう。  
ストップは対震自動消火機種の揺れを感じると自動で電気やガスが止まる感震ブレーカーを設置する。  
ガラスの破片による怪我を防ぐため、スリッパなどを身近に用意しよう。

### 固定できる壁の探し方

壁によっては固定できない壁もあります。

●ドライバーでたたいて探そう  
壁の内部の柱を探そう  
壁の厚さや材質を確認しよう

●プッシュピンによる確認の方法  
壁の内部の柱を探そう  
壁の厚さや材質を確認しよう

### 壁の柱と家具の柱をL型金具で固定

家具の柱が壁の柱と重なっている場合は、L型金具で固定しよう。

### 壁に固定できない場合の固定方法（壁の中に柱がなく、やむを得ない場合）

家具の上部が、壁や柱から離れていて、天井に家具を支えるだけの力がないと危険です。壁に固定できない場合は、家具の上部を支えるための取っ手を天井に固定しよう。

### 家具の配置にも工夫を

安全な配置の位置は家具の前です。もしも家具の前が通路の場合は、家具の高さ以上の扉を開け、通路を確保しよう。

●積み重ねる家具の固定方法  
家具の内側に固定するよう工夫しよう。

## 情報の収集 / 自主防災組織

震災に対して適切に対応をするには、正確な情報の収集が必要です。テレビやラジオなど報道機関のほかに、緊急地震速報の活用や市役所からの呼びかけにも注意して、最新の気象情報・災害情報・避難情報を把握しましょう。

### 情報はこちから入手

ふじみ野市 <https://www.city.fujimino.saitama.jp/>

ふじみ野市防災情報ポータルサイト <https://fujimino.city.eyes-bousai-plus.com/PTLCO010/top?nit>

気象庁 <https://www.jma.go.jp/>

埼玉県防災ポータルサイト <https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/index.html>

首相官邸 <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/jishin.html>

総務省消防庁防災・危機管理e-カレッジ <https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/>

消防防災博物館 <https://www.bousaihaku.com/>

埼玉県 防災情報メール <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0402/903-20091202-28.html>

事前登録により、気象警報や地震などの防災情報を配信 携帯電話の登録説明ページ→

ふじみ野市メール配信サービス（ふじみ野メール） <https://www.city.fujimino.saitama.jp/soshikichiran/kohokochoka/kohokochokakari/sms/1627.html>

事前登録により、ふじみ野市のさまざまな情報（防災情報を含む）を配信 携帯電話の登録説明ページ→

ふじみ野市防災行政無線 電話自動応答サービス 電話番号 049-256-8877  
防災行政無線で放送した内容を電話で確認ができるものです。放送内容が聞こえなかった場合やもう一度確認したい場合にご利用ください。

### 緊急地震速報の利用

緊急地震速報は、気象庁が震度4以上の揺れがあると予測した地域に発表されます。震源の近くでは、大きな揺れに間に合わないことがあります。また、予測震度がプラスマイナス1程度の誤差があります。

はじめに来る揺れを早く知ることができれば、揺れが来るより早く避難行動を開始し、被害を減らすことができます。

### 自主防災組織の活動

自主防災組織とは自治組織単位で結成されるもので、市民のみなさんが自主的に連携して相互協力による組織的な防災活動を行う団体のことをいいます。災害による被害を最小限におさえるためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。

**平時時**

- 災害に備えるために、日頃から地域のみなさんに、防災知識・防災活動の必要性を理解してもらい活動を行います。
- 地域内の安全点検 ..... 地域内の危険箇所や問題点を確認し改善します。
- 防災知識の普及と啓発 ..... 地域住民に防災知識を広め、関心を持ってもらいます。
- 防災訓練 ..... 災害に備え、消防団などの指導のもと訓練を行います。

**災害時**

- 人命を守る被害の拡大を防ぐために、地域のみなさんが協力して、火災の初期消火や負傷者の救護などを行います。
- 初期消火 ..... 消防機関と協力し、初期消火活動を行います。
- 避難誘導 ..... 避難経路の安全を確認し、住民を避難所へ誘導します。
- 救出・救助 ..... 負傷者などの救出・救助や、応急手当を行います。
- 情報の収集と伝達 ..... 防災関係機関と連絡を取り、情報を住民に伝達します。
- 避難所の管理と運営 ..... 避難所での食料物資の調達と配分、給水活動を行います。